

平成23年度 当初予算の主な特色

- ①予算規模が一般会計で24億円強の増、484億7千9百万円と、過去最高となり、国民健康保険事業特別会計など特別会計を含めた予算規模としても、過去最高の802億9千円弱と市政始まって以来、800億円を超えた。
- ②第4次行財政改革大綱の初年度として、行財政改革の取り組みによる一般財源の圧縮に努めた一方で、第4次総合計画においても初年度であることから、新たな実施計画に基づき、子育て支援策や環境問題への取り組みなどを始め、生活充実都市を実現するための新規事業の予算化に努めた。
- ③老朽化した多くの市内公共施設の補完工事や維持補修等の経費について、限られた財源を可能な限り予算配分を充実させた。
- ④特別会計の繰出金について、節減を求めつつも、医療費等の伸びが懸念される国民健康保険事業特別会計などを中心に、一定額を確保せざるを得なかった。
- ⑤職員の定年退職が最大のピークを迎えていることから、平成22年度に引き続き退職手当債の発行を見込まざるを得なかった。
- ⑥平成21年度、平成22年度に引き続き、財政調整基金を取崩すことなく、予算を編成した。